

30年5月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成30年 5月1日～ 30年5月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
5月分の回答企業数は15社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/5月	6月	7月
入荷動向	スギ	12.5	△ 25.0	△ 6.3
	ヒノキ	△ 8.3	△ 16.7	△ 16.7
	カラマツ	50.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 25.0	△ 50.0	25.0
消費動向	スギ	12.5	12.5	12.5
	ヒノキ	8.3	16.7	16.7
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	25.0	△ 25.0	25.0
在庫動向	スギ	△ 7.1	△ 14.3	7.1
	ヒノキ	△ 16.7	△ 25.0	△ 25.0
	カラマツ	50.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 25.0	△ 50.0	25.0

・スギ製材用原木の入荷動向は5月の増加から6月7月は減少に。ヒノキは3カ月連続減少。カラマツは5月の増加から6月、7月は横ばいに。トドマツは5月、6月の減少から7月は増加に。

・スギ、ヒノキの消費動向は3カ月連続増加。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは5月の増加から6月は減少、7月は再び増加に。

・スギの在庫動向は5月、6月の減少から7月は増加に。ヒノキは3カ月連続減少。カラマツは5月の増加から6月、7月は横ばいに。トドマツは5月、6月の減少から7月は増加に。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	30/5月	6月	7月
スギ	△ 22.2	△ 5.6	11.1
ヒノキ	△ 30.0	0.0	0.0
カラマツ	50.0	50.0	50.0
トドマツ	25.0	0.0	0.0

・スギ製材用原木の価格動向は弱含み。
・ヒノキは保合。
・カラマツは強含み。
・トドマツは保合。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・カラマツは使用量に対し120～130%の入荷であったが、トドマツは公有林の入山規制のため入荷低調。製材品の受注は変わらず堅調に推移。立木を自社で手当てして造林しなければ、原木の安定入手は不可と思われる（北海道）。

・入山規制解除。トドマツの工場在庫は10日、山土場在庫は1カ月。出材が本格化するのは7月か。6月は厳しい予想。原木在庫に合わせた生産で調整（北海道）。

・各市場とも出材量は前月と変わりはない。単価についても横ばい状態である（東北）。

・天候次第だが、ヒノキ丸太の入荷は7月から減ると予想。6月から消費増やす見込み。5月から7月に向けて在庫を減らす予定（中国）。

・天候良く出材順調。新ライン稼働により原木消費は増加傾向（中国）。

・スギ、ヒノキ丸太が市場への出荷減少のため、入荷は少し控えたこともあり当月やや減少。入荷した分は消費している。入荷が減った分だけ在庫は減った（中国）。

・梅雨に入ることや単価的にも下降気味のため若干減少傾向になるのではないかと（九州）。

(原木価格)

・昨年度より仕入1,000円アップ。生産できなくなるため、やむを得ずバイオマス、合板との取り合い（北海道）。

・各市場とも出材量は前月と変わりない。単価についても横ばい状態である（東北）。

・ヒノキ丸太は6月から7月にかけて値上りする見込み（中国）。

・特に変化なし（中国）。

・スギは変わらず横ばい。ヒノキは少し緩んだが入荷が減るとともに強含みを見込む（中国）。

30年5月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/5月	6月	7月
生産動向	スギ	13.6	15.0	15.0
	ヒノキ	16.7	16.7	8.3
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	25.0	△ 25.0	25.0
出荷動向	スギ	11.1	16.7	33.3
	ヒノキ	0.0	21.4	21.4
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	25.0	△ 25.0	25.0
在庫動向	スギ	△ 5.6	0.0	0.0
	ヒノキ	0.0	8.3	8.3
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ、ヒノキ製材品の生産動向は3カ月連続増加。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは5月の増加から6月は減少、7月は再び増加に。

・スギ製材品の出荷動向は3カ月連続増加。ヒノキは5月の横ばいから6月、7月は増加に。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは5月の増加から6月は減少、7月は再び増加に。

・スギ製材品在庫動向は5月の減少から6月、7月は横ばいに。ヒノキは5月の横ばいから6月、7月は増加に。カラマツ、トドマツとも3カ月連続横ばい推移。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		30/5月	6月	7月
スギ	柱角 KD10.5×3	0.0	0.0	0.0
	柱角 KD12×3	0.0	0.0	0.0
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	桁角	0.0	0.0	0.0
	母屋角	0.0	0.0	0.0
	タルキ	0.0	12.5	0.0
	間柱	6.3	0.0	0.0
	ヌキ	0.0	0.0	0.0
	平割	0.0	12.5	0.0
	ラミナ	0.0	0.0	0.0
	ヒノキ	柱角 KD10.5×3	8.3	8.3
柱角 KD12×3		8.3	8.3	8.3
土台角 10.5×4		14.3	7.1	7.1
土台角 12×4		7.1	7.1	7.1
通し柱 12×6		8.3	0.0	0.0
ラミナ		0.0	0.0	10.0
カラマツ土台角10.5×4	0.0	0.0	0.0	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	0.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	0.0	

・スギ製材品の出荷価格は総じて横ばい推移。

・ヒノキは柱角KD、土台角はやや強含み。通し柱、ラミナは横ばい。

・カラマツは土台角、梱包仕組み板、ラミナとも横ばい。

・トドマツサンギも横ばい。

モニターからのコメント

(製材品荷動)

・トドマツ製品は原木在庫に合わせて生産、既存客への安定供給を目指す。生産即出荷の状況で製品在庫は横ばい(北海道)。

・工場フル生産のため、製材品ごとの増減はあるが総量は変わらない。ヒノキに関してはレゾ製品生産が順調。

時期的要因で5月は安定出荷見込み。6月以降も前年並みの推移を予想。5月から特に柱の引き合いが強い。3.5、4寸角とも不足感あり。ヒノキ集成土台のJAS取得に伴い、5月より出荷開始(東北)。

・5月から7月にかけてヒノキ製材品の生産を増やす。同期間の販売は増える見込み。在庫は増減させない(中国)。

・新ライン増設によりスギ製材品の生産・出荷が増加。在庫は出荷増も思いのほか落ち込み少ない(中国)。

・入荷した分を生産。出荷は柱、土台、間柱を中心に動きは順調。在庫は製材しただけは売れていく状況(中国)。

・バランスの良い出荷ベースが続いている(九州)。

(製材品出荷価格動向)

- ・カラマツ土台角は予定通り4月から値上げした（北海道）。
- ・トドマツサンギの値上げ浸透、秋口に更なる値上げ必要（北海道）。
- ・スギ柱角（KD）10.5は引き合い強い。昨年10月頃から高値で推移。12角は前月同様引き合いは強いが値上げはなし。タルキ、平割については減産のため値上げして出荷調整（東北）。
- ・ヒノキ製材品は6月から7月にかけて値上りする見込み。但し通し柱は横ばいと予想（中国）。
- ・スギ、ヒノキ製材品とも価格安定（中国）。
- ・スギ製材品の価格はなかなか上げずらい。ヒノキは10.5角を中心に値戻し（中国）。

30年5月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/5月	6月	7月
仕入動向	米マツ丸太	△ 50.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	△ 50.0	0.0	50.0
	NZラジアータ	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の仕入動向は5月の減少から6月、7月は横ばいに。NZラジアータは5月の横ばいから6月、7月は減少に。

・米マツ丸太の消費動向は5月の減少から6月は横ばい、7月は増加に。NZラジアータは5月の横ばいから6月、7月は減少に。

・米マツ丸太の消費動向は3カ月連続横ばい推移。NZラジアータは5月の横ばいから6月、7月は減少に。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/5月	6月	7月
米マツ丸太	△ 50.0	0.0	0.0
NZラジアータ丸太	0.0	50.0	50.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太製材用原木の購入価格動向は保合。

・NZラジアータは強含み。

モニターからのコメント

(原木荷動)

・閑散期（5～6月）のため生産・出荷減少予定。在庫は増加する。

(原木価格動向)

・FRTの上昇によりコストアップ。

30年5月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/5月	6月	7月
生産動向	米マツ製材品	△ 50.0	0.0	50.0
	NZラジアータ製材品	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向	米マツ製材品	0.0	50.0	50.0
	NZラジアータ製材品	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向	米マツ製材品	0.0	0.0	△ 50.0
	NZラジアータ製材品	0.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産動向は5月の減少から6月は横ばい、7月は増加に。NZラジアータ製材品は5月の横ばいから6月、7月は減少に。

・米マツ製材品の出荷動向は5月の横ばいから5月、6月は増加に。NZラジアータ製材品は5月の横ばいから6月、7月は減少に。

・米マツ製材品の在庫動向は5月、6月の横ばいから7月は減少に。NZラジアータ製材品は5月の横ばいから6月、7月は増加に。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		30/5月	6月	7月
米マツ平角		0.0	0.0	0.0
米マツ正角		50.0	0.0	0.0
米マツ小割		0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ		—	—	—
北洋アカマツタルキ		—	—	—
NZ梱包材(割板)		0.0	0.0	0.0
NZ梱包材(割角)		0.0	0.0	0.0
NZ土木用材		0.0	0.0	0.0
その他		—	—	—

・米マツ平角、小割の出荷価格動向は3カ月連続横ばい推移。正角はやや強含み。

・NZ製材品の出荷価格動向は梱包材（割板、割角）、土木用材とも3カ月連続横ばい推移。

モニターからのコメント

(製材品の荷動き)

- ・閑散期（5～6月）のため生産・出荷減少予定。在庫は増加する。

(製材品出荷価格動向)

- ・販売価格は現状維持。